

# 房日新聞

THE BONICHI SHIMBUN

3月6日 火曜日

平成19年(2007年) 旧暦1月17日(大安)

天気	西の風強く曇り 時々晴れ		
潮位	満潮 05時51分/17時59分	大潮	
	干潮 11時52分/一時一分	(布良)	

日刊 第16295号 (昭和27年3月27日 第3種郵便物認可)【月曜休刊】



床ずれ研究会の役員＝鴨川

川 鴨

## 床ずれ予防と治療確立へ

### 医師ら13人で研究会発足

急激に進む高齢化社会の中で、課題となっている寝たきりから発生する床ずれ(褥瘡)の防止や治療法をはじめ、薬や機器の研究、高齢者問題に取り組んでいく、という組織「床ずれ研究会」が鴨川市に発足した。「研究成果や実績を全国に発信し、褥瘡の予防や

患者の病状軽減、医療費削減など医療経済政策にも貢献したい」としており、現在、NPO法人の認可を申請している。

床ずれは、自分で体の向きや位置を変えることができない、寝たきり老人などに多く発症し、重症になると命にかかわることもある。つくらないことが最善の解決手段だが、在宅などの場合、ケアにあたる人の負担もあり、多くが苦痛を余儀なくされているのが現実。

2025年に寝たきり老人は、現在の1.5倍以上の230万人に上り、床ずれ患者も比例して増加すると予測されている。予防や治療法の確立が急がれるが、専門研究機関は少なく、あっても特定分野の医療従事者の集団がほとんど。

そこで、同研究会は、医師や薬剤師、介護者などさまざまな視点から褥瘡の防止や治療、薬品、機器などの研究に取り組み、成果と実績の学会発表、製薬会社や医療機関への情報提供から、最大公約数的なスタンダード治療の確立につなげよう、と医師1人、薬剤師4人、大学の研究者2人、鴨川市内の有志5人の計13人で発足した。

今後、高齢化がさらに進むと、

先ごろ、設立総会を開き、規約や具体的な活動として①床ずれ医薬品、医療

機器等の研究事業②医療(福祉)現場との情報交換及び関連学会、団体との交流事業③高齢化問題に対する相談支援に関する事業④ITを活用した医療、福祉ネットワーク普及に関する事業―を展開していくことを決めた。また、役員の出選では、理事長にエビハラ病院に勤務する薬剤師、久保忠一さんを選任した。

同研究会では、すでにホームページも立ち上げ、設立趣旨など研究会について、床ずれの病状と説明、Q&Aなどを掲載している。

他の役員は次のとおり。  
 〓敬称略  
 ▽副理事長〓椎野瑞穂▽理事〓須田厚、宇佐美崇信、森永操、二川康伸▽監事〓光永勲

理事長に薬剤師の久保忠一氏就任